

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001626	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日□
法人名	シニアウイル株式会社		
事業所名	シニアウイルおどりば戸塚		
所在地	(〒245-0061) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-31-18-19		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年1月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	http://senior-will.co.jp
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが発生する前は、認知症カフェを月に1度は、地域の方が平均8名ほど来られていた。4月より感染予防のため中止している。おやつ作りや散歩なども、力を入れていたが、散歩も敷地内で行っている。新型コロナウイルスが流行してからは、感染予防のため利用者様同士でも、アクリル板で仕切ったり、テーブルを個別にしたりして対応している。面会は、玄関先やオンライン面会を行っている。

感染予防の対策で、1日に3回以上アルコール消毒やジアノックナトリウムで消毒をし、普段は、マスク、ビニール手袋をして、15分以上関わる際にはマスク、フェイスシールド、ビニール手袋、ガウンを着用している。また、法人で、抗体検査を3か月に1度実施し、職員の健康管理にも留意している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
書面調査日	令和2年12月1日	評価機関 評価決定日	令和2年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇利用者の思いや意向を取り入れたケア ・利用者 s い新聞を読みたい利用者には、新聞配達を依頼していつでも新聞が読めるようにし、利用者の嗜好品を把握して、コーラを提供したりしている。 ◇食事を楽しむ工夫 ・食事用の食器には、利用者が使い慣れた馴染の器を使って、自宅にいるのと変わらない雰囲気を演出している。食事の好みは、アセスメントの折確認しており、好みのメニューを食事作りのイベントで作っている。 ◇利用者の人格の尊重への取り組み ・利用者の尊厳を損ねない対応のため、独自のマナー集を用いて職員同士で話し合っている。「身体拘束防止委員会」で話題となったスピーチロックの防止についても研修し、反する場合には職員同士で注意しあっている。
【事業所が工夫している点】 ◇コロナウイルス感染防止対策 ・事業所内は、夜間以外窓を開け喚起している。利用者間の「密接」を避けるため、フロア内の一つのテーブルは、1～2名で使用し、真向かいにならないよう環境に留意している。7月以降は面会はオンラインで行い、イベントは中止している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	さくらの家

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を誰でも目の届く場所に掲示しており、職員介護の際に管理者が口頭で話している。	・管理者は、職員会議で「シニア(お客様)の気持ちを大切にし、お一人お一人、その人らしい笑顔と尊厳を大切にした生活を提供します」との理念を読み上げ、職員に周知している。 ・職員は各自に配布されたマナー集を読んで理念の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、行事などに利用者様とともに出かけている。	・町内会に加入し、利用者は、町内会主催の餅つき大会や納涼祭に出かけていたが、今年はコロナの感染予防のため参加を見合わせている。 ・地域ボランティアによる日本舞踊や獅子舞、有料の訪問理容がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催していたが、新型コロナウイルスの影響で中止している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で書面での開催となっている。	・運営推進会議は、町内会長や老人会会長、民生委員、地域包括職員、薬剤師、利用者家族で構成し、2か月ごとに開催しているが、コロナ感染予防のため書面会議としている。 ・地域包括からオレンジカフェへの集客依頼の協力要請があった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当や区の高齢・障害支援課との連携をしている。	・運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、入居相談についての情報交換をしている。議事録は区の担当者に郵送している。 ・区のグループホーム協議会に出席し、職員研修や現状の悩みなどを話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1度行い、その都度、職員に周知している。	・重要事項説明書に「身体拘束その他の行動制限」を掲げ、身体拘束をしない旨を玄関に掲示している。 ・利用者の行動制限の他に、スピーチロックも拘束にあたることを、身体拘束防止委員会で取り上げ、職員研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で職員間の注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の後見人の方が何名かいるので、時々話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書を一字一句読み上げ、説明し、理解を得るように、わからないときは後日でも質問を受け付けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回行い、その際に聞いたリ、意見箱の設置をしている。	・面会時や家族会を、利用者家族の意見・要望を聞く機会としている。意見箱を玄関に設置している。 ・また、コロナ禍で面会が制限されており、家族からの要望で、オンライン面会を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、職員が聞きやすい環境を作り、その都度対応している。	・管理者は、職員会議や職員との挨拶のとき、意見や要望を聞く機会としている。 ・職員の要望で、毎日の支援表の記入方法や洗濯頻度などの業務改善について話し合い実行した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年3月に職員一人一人に自己評価をし、管理者が各々と面談している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはマニュアルをもとに、チェック表を設けている、また、キャリアパス制度により、研修の参加や資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や地域の医療、介護の集まりに参加できるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活するにあたり、ご家族や本人の不安を少しでも安らいで頂くよう、要望等を職員でしっかり把握し、共有するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。また、家族の面会・外出・外泊は制限せず、家族との関係作りの継続に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族には生活の基本情報シートに記入していただき、入居前の生活の様子を把握し、問題解決に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と個別に接する時間をたくさん設け、家庭的な関係を構築するように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の生活状況報告を家族に郵送し、感想を送り返して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの申し出がない限り、家族以外でも面会は許可している。	<ul style="list-style-type: none"> ・以前住んでいた近所の方が面会にきていたが、コロナ禍のため現在は途切れている。 ・家族と電話で話し合ったり、外出して一緒に食事をしてくる利用者もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人の性格や行動を理解し、作業グループ等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、終末期や医療機関への入院が多く、その後も係るケースが少ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の今までの生活歴や本人の意思・希望に沿ったプラン作りをしている。意思・希望を伝えるに難しい場合やよく確認できなければ、言葉や行動から希望を導き出すように努めている	・職員は普段の利用者との接触の中から、利用者の行動を周知しており、仕草や表情で思いや意向を理解できる。 ・利用者の希望で、新聞の居室への配達を頼んだり、コーラなどの嗜好品の提供をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。家族には生活の基本情報シートに記入していただき入居前の生活の様子を把握しプラン作成の問題解に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の性格、年齢、体調、病状等により、集団生活への適応が困難なケースについては各人の生活リズムを保てるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を元に職員がそれぞれに利用者のアセスメントを実施、スタッフ会議にて意見を合わせケアプランを作成している	・計画担当者が、職員の記入するアセスメントシートに沿ってモニタリングし、スタッフ会議で検討して、介護計画を作成している。 ・長期目標は1年、短期目標は6か月で、3か月毎に見直しを行っている。利用者の急変時には、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用、生活の様子が時間を追って記入しているその方の表情なども細かく記入するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望にて外出・外泊の支援やご家族の要望にお応えし、マッサージなどを支援していたが、新型コロナの影響であまりできていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者様が重度化しており、なかなか地域の行事に参加することが難しいが、行ける方はできるだけ参加していたが新型コロナの影響であまりできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は常に把握しており、訪問診療にも主治医にしっかり伝えている。急変時にも直ぐに対応できるように主治医との連携をとっている。通院時にも家族、スタッフ同行し、医師の指示をきちんと把握し支援している。	・入居前のかかりつけ医を継続している利用者が1名いるが、大半の利用者は、家族の同意を得て協力医と契約している。 ・協力医は月2回、歯医者や訪問看護師は週2回の往診がある。通院は管理者が付き添い、結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活状況、身体の様子の変化などしっかり観察し訪問看護に報告・相談しながら健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況をしっかり伝える。入院中の治療状況、身体状況を把握し、家族との連携を取りながら早期の退院に向けて支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、主治医と家族が話し合い、ご家族の意向を踏まえて職員も協力し状況の変化にも最適な選択ができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って、利用者や家族に説明している。家族の意向を尊重し、医療関係者と職員も連携して支援している。 ・現在、重度化している利用者はいるが、ここ1年、終末期の対応者はいない。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防への通報訓練や急変時の対応について訓練や研修を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のための最低限の水と食料を確保したり、地域の防災訓練にも参加している	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の協力を得た避難訓練と自主訓練を年に2回（うち夜間想定1回）、利用者も参加して実施している。 ・食料と飲料水その他、防寒具などの備蓄品は備蓄表で管理し、専用倉庫に保管している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、人格を尊重し、それぞれのプライバシーを侵害することがないよう、声掛けに十分配慮している	・職員は、スタッフ会議で独自のマナー集をもとに、利用者の人格の尊重やプライバシー保護について学び、一人ひとりの尊厳を損ねない対応を心掛けている。 ・不適切な対応があれば管理者はその場で注意し、職員間でもお互いに確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすい言葉かけをし、本人の自己決定を促すよう対応している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の主となる時間は、概ね決まっているが、本人のその日の状態に合わせて柔軟に対応している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人の意志を尊重している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを見極め、盛り付けや下膳、食器拭き等をスタッフと一緒にやっている	・箸、茶碗などは利用者が使い慣れた馴染みのものを使っている。 ・利用者はできる範囲で下膳や食器拭きを手伝っているが、コロナ禍のため1名（以前は5名）しかできていない。 ・利用者の好みや希望はアセスメント時に把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理されているので、季節感のある汁物を提供し、食事量、水分量は必ずチェックをし、体調や嚥下能力に合わせ、硬さや形態の調節をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただき、介助が必要な方には、支援をしている。訪問歯科により口腔クリーニングもしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を見ながら、一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている	・排泄チェック表を活用し、利用者のできることを尊重しながら、声かけ・誘導、見守りをして、排泄の自立に向けた支援を行っている。 ・声かけの際にも、プライバシーに配慮することを心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談の上、水分を多めに摂っていただくなど、できるだけ自然に排泄できるように支援している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、個々の体調や状況に合わせて清潔の保持をしている。	・入浴は、2～3日おきに午前もしくは午後に利用者の健康状況を見ながら支援しており、職員と1対1でゆっくり話せる良い機会と捉え大切にしている。 ・入浴を好まない利用者には、言葉かけや職員、日にちを変え、無理強いのないよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的に過ごして頂き、夜間によく眠れるように支援している。一人ひとりの状況に応じて、昼間に休んで頂くこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には職員が同席し、利用者の状況を把握し、日々の状況の変化を見逃さないように努めている。用法、用量について疑問がある時は、主治医、薬剤師に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や好きなことを理解し、生き生きと楽しく過ごせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人お希望があればできるだけ、近所を散歩している。行事などがあれば参加し、家族の協力をお願いしている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、以前のように外出できないが、天候や利用者の体調に配慮し、週に1、2回、車椅子の利用者も一緒に中庭や事業所横の畑まで、外出している。 ・コロナ禍のため、以前行っていた花見などの外出イベントは中止している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ、買い物に行っていたが、現在、利用者の重度化が進み自分でお金を所持し買い物する状況ではない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などからの電話は取り次ぎしたり、手紙のやり取りも行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく保ち、利用者が混乱しないよう配慮している。壁には季節を感じられるような絵や写真を飾っている	<ul style="list-style-type: none"> 共有空間は、温湿度、照明、換気に配慮し、特に照明は日中も全て点灯して、利用者が混乱しないよう配慮している。 壁には利用者が作成した季節の塗り絵が飾られている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く開放的で、窓際にはソファや椅子を置き利用者が個々に過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具や装飾品等を持って来て頂いている。配置もその方の状況に合わせて落ち着いて心地よく過ごして頂くようにしている	<ul style="list-style-type: none"> 事業所が設置するベッド、エアコン以外、利用者は入居時本人が使い慣れた家具や好みのものを持込んでいる。 配置も家族と相談しながら、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで見守りやすくなっている。安全面にも配慮しできるだけ自立した生活が継続できるように努めている		

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	ばらの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念には、利用者のその方らしい生活が送れるように、尊厳を大切にし、生活面において馴染みの地域、行事参加や医療との連携を強めており、職員は常に理念を頭におき心がけ介護に従事している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのお祭りや清掃の参加、理髪店の訪問カットを受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェをしていたが新型コロナの影響で中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績についての報告や取り組みを行っているが、新型コロナの影響で書面での対応となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のグループホーム連絡会に参加している。また、生活保護担当などとも連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提にしている。身体拘束（虐待防止）の社内研修を行い共有し確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含めた社内研修を行い、職員同士が注意し合える環境作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方が来ホームされ、利用者様と話の後、職員とも話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に説明を行っている。また家族の要望や質問についてはきちんと対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や電話連絡の際に会話を通じて、要望を聞くようにしている。また、意見箱を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に時間を設けていないが、運営と経営が分離しないよう、代表者も現場に常駐して、意見を聞けるようにしている。また、気づきシートを使い、スタッフ会議や年1回管理者と面談などで話し合う機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価制度を導入して、各自の意見を聞いて、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修も情報を職員に伝え、必要に応じた研修等に参加するように指導し、向上できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢者グループホーム連絡会に加入している。連絡会の時の研修会にも参加している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活するにあたり、ご家族や本人の不安を少しでも安らいで頂くよう、要望等を職員でしっかり把握し、共有するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。また、家族の面会・外出・外泊は制限せず、家族との関係作りの継続に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族には生活の基本情報シートに記入していただき、入居前の生活の様子を把握し、問題解決に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と個別に接する時間をたくさん設け、家庭的な関係を構築するように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の生活状況報告を家族に郵送し、感想を送り返して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの申し出がない限り、家族以外でも面会は許可している。また、オンライン面会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人の性格や行動を理解し、作業グループ等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、終末期や医療機関への入院が多く、その後も係るケースが少ない。また、退居時にいつでも何かあれば連絡くださるよう伝えていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の今までの生活歴や本人の意思・希望に沿ったプラン作りをしている。意思・希望を伝えるに難しい場合やよく確認できなければ、言葉や行動から希望を導き出すように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。家族には生活の基本情報シートに記入していただき入居前の生活の様子を把握しプラン作成の問題解に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の性格、年齢、体調、病状等により、集団生活への適応が困難なケースについては各人の生活リズムを保てるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を元に職員がそれぞれに利用者のアセスメントを実施、その都度、必要になれば、カンファレンスをしてより良く暮らせるようにケアプランの作成をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用、生活の様子が時間を追って記入しているその方の表情なども細かく記入するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日中、3から4人の体制の職員配置し、出来る限りの訴えに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者様が重度化しており、なかなか地域の行事に参加することが難しいが、行ける方はできるだけ参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は常に把握しており、訪問診療にも主治医にしっかり伝えている。急変時にも直ぐに対応できるように主治医との連携をとっている。通院時にも家族、スタッフ同行し、医師の指示をきちんと把握し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活状況、身体の様子の変化などしっかり観察し訪問看護に報告・相談しながら健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況をしっかり伝える。入院中の治療状況、身体状況を把握し、家族との連携を取りながら早期の退院に向けて支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、主治医と家族が話し合い、ご家族の意向を踏まえて職員も協力し状況の変化にも最適な選択ができるように支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防への通報訓練や急変時の対応について訓練や研修を行っているが、近所の方に訓練日をお伝えするも参加が得られていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のための最低限の水と食料を確保したり、地域の防災訓練にも参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、人格を尊重し、それぞれのプライバシーを侵害することがないように、声掛けに十分配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすい言葉かけをし、本人の自己決定を促すよう対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の主となる時間は、概ね決まっているが、本人のその日の状態に合わせて柔軟に対応している。また、積極的にお手伝いなどに参加していただけるような環境づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人の意志を尊重している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食器拭き等、それぞれが出来る範囲で参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理されているので、季節感のある汁物を提供し、食事量、水分量は必ずチェックをし、体調や嚥下能力に合わせ、硬さや形態の調節をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアをしていただき、介助が必要な方には、支援をしている。訪問歯科により口腔クリーニングもしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を見ながら、一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談の上、水分を多めに摂っていただくなど、できるだけ自然に排泄できるように支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、個々の体調や状況に合わせて清潔の保持をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的に過ごして頂き、夜間によく眠れるように支援している。一人ひとりの状況に応じて、昼間に休んで頂くこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には職員が同席し、利用者の状況を把握し、日々の状況の変化を見逃さないように努めている。用法、用量について疑問がある時は、主治医、薬剤師に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や好きなことを理解し、生き生きと楽しく過ごせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人お希望があればできるだけ、近所を散歩している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ、買い物に行っていたが、現在、利用者の重度化や新型コロナの影響で、自分でお金を所持し買い物する機会がない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などからの電話は取り次ぎしたり、手紙のやり取りも行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は日中も電気を付け、明るく保ち、利用者が混乱しないよう配慮している。壁には季節を感じられるような絵を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く開放的で、窓際にはソファや椅子を置き利用者が個々に過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具や装飾品等を持って来て頂いている。配置もその方の状況に合わせて落ち着いて心地よく過ごして頂くようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで見守りやすくなっている。安全面にも配慮しできるだけ自立した生活が継続できるように努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 シニアウイルおどりば戸塚

作成日 令和2年12月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ過で面会がごく一部になり、利用者様の認知症の進行がある。	オンライン面会が一部の家族にしかできていないので、パソコンやスマートフォンのある家族に、オンライン面会をしていただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月生活状況を郵送しているのに、その際に、オンライン面会のやり方を書面での説明を郵送してみる。 ・ホームでの面会も条件はあるが、1人15分以内なら大丈夫との説明をする。 	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。